

祝 辞

歴史と伝統を誇る青森高校の第75回生となる皆さん、ご卒業おめでとうございます。同窓会を代表して皆さんの同窓会入会を心より歓迎申し上げます。また、教え導いてくださった高橋英樹校長先生はじめ諸先生に衷心から感謝申し上げます。

青森高校は、1900年（明治33年）の創立以来、4万1千人を超える卒業生を輩出し、同窓生は世界中で活躍しています。

さて、同窓会の目的は、会員相互の親睦と母校の発展に寄与することですが、その目的を達成するために、1.同窓会親睦会の開催 2.会報の発行 3.会員名簿の管理 4.その他必要な事業を行うことになっています。その具体的な内容は、1.同窓会親睦会の開催ですが、ホテル青森を会場とし、毎年8月に行っています。今年は、8月9日(土)午後5時から始まりますので、是非お越しになってください。今回、ご卒業の皆さんは特別に無料としています。また、青森市以外にも地区同窓会が組織され様々な活動をしています。青森県内では、弘前市、むつ市そして2月15日に発足したばかりですが、八戸市にもあります。青森県外では東京都と西日本にもありますので、皆さんのお住まいになるエリアにこれらの地区同窓会があるようでしたら是非参加してみてください。 2.会報の発行ですが、8月の同窓会懇親会に合わせて年一回発行しています。同窓生の近況、同好会の活動状況、地区同窓会情報、在校生や母校の話題等を掲載しています。更に、同窓会ホームページもありますので、「青森高校同窓会」で検索していただければ、これまでの同窓会報がご覧になれますし、最近の同窓会の動き等もわかります。 3.会員名簿の管理ですが、個人情報保護の観点から現在、会員名簿の発行はしていません。セキュリティを厳重にし、重要な案内発送の時などに限定して利用しています。また、皆様の住所や名前が変更になった際は、同窓会事務局へご一報くださるようお願い申し上げます。 4.その他必要な事業は、在校生を対象とした講演会の開催やシンガポール等への海外研修事業の助成及び母校の周年事業への協賛等です。

ところで、昨年11月21日付けの産経新聞に次の記事が載っていましたので、ご紹介します。【語学校を世界展開する企業「EF エデュケーション・ファースト」(本部スイス)がこのほど発表した英語圏以外の国・地域の2024年版「英語能力指数」で、日本は過去最低の92

位に転落した。急速な国際化に逆行し、日本の順位は下落が続き、英語力の低下に歯止めがかかっていない。調査対象は、116 カ国・地域。オランダが6年連続首位を維持した。2位はノルウェー、3位はシンガポール。日本は前年の順位を5つ下げ、韓国やベトナム、インドネシア、中国などを下回り、アジア23カ国・地域でも16位に沈んだ。】ということです。

この背景として、学校教育での英語は受験対策としての文法や読解に重点が置かれコミュニケーション能力の育成が不十分だと指摘する識者もおられます。

私は、世界的な社会奉仕団体のロータリークラブに所属していますが、数年前から日本国内各地の大学や大学院に留学している外国人学生に給付型の奨学金を支給し、勉学を支える活動をしています。国籍も中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ、ネパール、マレーシア等様々ですが、彼らに共通して言えることは、日本語能力だけでなく英語能力が極めて高いということです。国際的な英語能力検定試験 TOEIC の満点は990点ですが、900点台や800点台の人たちがほとんどです。直近の日本人平均点は561点ですので、残念ながらこの比較においても、先ほど紹介した記事の内容に符合すると思います。

2022年にChat GPTの登場以来、生成AI翻訳により翻訳が瞬時に行われ、これまでにない自然さで文章を訳してくれるようになりましたが、これにより英語をもう学ぶ必要はないと考える人がいるかもしれません。生成AI翻訳は私も利用しますが、文脈の把握を正確に理解できないこともあり、また単語やフレーズの意味がおかれた状況によってニュアンスが変わってくる場合は対応できない限界があります。やはり自分自身が英語能力をしっかりと身につけ判断する必要があると思います。

皆さんは将来、海外の大学・大学院で学ぶこともあるでしょうし、国際的な分野で活躍される機会もあるでしょう。その際、最終的に皆さんを助けてくれるツールは、努力して身につけた英語力であり、英語学習を通じてグローバルな視野を持ち、多様な文化的背景を持つ人々と交流する能力を養うことができるのだと思います。

結びに皆さんの光り輝く未来と母校、青森高校の益々の発展を祈念申し上げ私の祝辞といたします。

2025年（令和7年）2月28日

青森県立青森高等学校同窓会会長 沼田 廣